

## 1 学習指導及び学習評価の改善・充実

### (1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

現行の学習指導要領が施行され3年が経過したところであるが、主体的な学びを実現する必要性について、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方（諮問）」（令和6年12月25日）において、次のような課題が指摘されている。

**「主体的に学びに向かうことができていない子供の存在」**

※学ぶ意義が十分に見いだせず学びに向かうことができていない

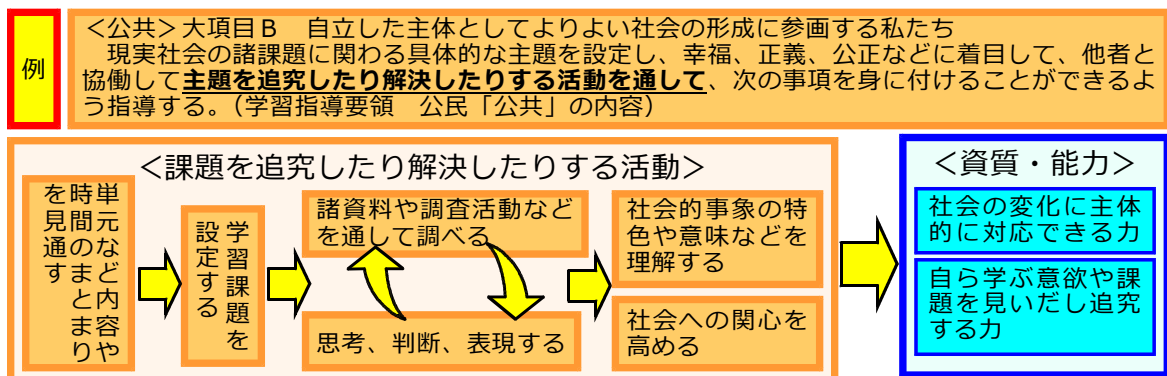
**「学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば」**

※習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えをもち、根拠をもって明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ない

**「デジタル学習基盤の効果的な活用」**

※我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位、デジタル人材育成の強化が必要

こうした課題のうち、「主体的に学びに向かうことができていない子供の存在」に関して、公民科では「社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動」の充実を図ることで、「社会の変化に主体的に対応できる力」を養うとともに、「自ら学ぶ意欲や課題を見いだし追究する力」を養うことが重要とされている。科目の内容等との関わりで整理すると、次のように示すことができる。



※「主な学習課題及び評価とその場面の例」（課題を追究したり解決したりする活動）については令和5年度（2023年度）「高等学校教育課程編成・実施の手引」（公民）を参照

公民科においては、特に、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動において、生徒が社会的事象等から学習課題を見いだし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、その結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりすることが、生徒の主体的な学びを実現するために必要であることから、次のように問いの構造化を図ることが重要である。

【単元を貫く問い】 法的主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、私たちは法をどのように捉えればよいだろうか。

- ← 【第一次の問い】 チケット高額転売問題を解決するためには、どのような方法が考えられるだろうか。
- ← 【第二次の問い】 成年年齢が18歳に引き下げられ18歳から一人で有効な契約をすることができるようになる中で、私たちはどのような点に気を付けて消費活動を行えばよいだろうか。
- ← 【第三次の問い】 2019年で10周年を迎えた裁判員制度の成果と課題を踏まえ、裁判に国民が参加することにどのような意義があるのだろうか。

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 公民（国立教育政策研究所）を基に作成

## (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

公民科における「主体的に学習に取り組む態度」については、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と、「よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」について評価する必要がある。このうち、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、単元の終末において、単元の始めに立てた見通しを踏まえて、学習への自身の関わりを振り返り、自分にとっての学習の意義として見いだした内容により評価する。また、「よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」については、学習の結果として、学習内容を人間としての在り方生き方、社会の在り方と結び付けて、問い続けていくべき現代の諸課題と、その課題を問い続けていくことの意義として見いだした内容によって評価する。

ここでは、「公共」の「主として法に関わる事項」の単元の指導計画の例を基に、「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の工夫を、単元の導入及び単元のまとめに焦点を当てて示す。

### <単元の指導計画の例>

次	主な学習活動 ◇学習活動概要 ◆指導上の留意点	評価の観点			評価規準等 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」
		知	思	態	
単元の導入 1時間	<p>【単元を貫く問い】 法的主体として、よりよい社会の形成に参画することに向けて、私たちは法をどのように捉えればよいだろうか。</p> <p>【第一次のねらい】 チケット高額転売問題の解決策を考察する活動を通して、よりよい社会の実現に法が貢献していることに気付かせ、単元の学習への関心（課題解決への意欲）を高めるとともに、単元の学習に見通しをもたせる。</p> <p>【単元の導入の問い】 チケット高額転売問題を解決するためには、どのような方法が考えられるだろうか。</p> <p>◇チケット高額転売の解決策をグループで考察することを通して、【単元を貫く問い】を設定し、単元の見通しを立てる。</p> <p>問 チケット高額転売問題を解決するためには、どのような方法が考えられるだろうか。</p> <p>◆生徒各自の生活経験やメディアを通して見聞きした事象等を発表させ、自分自身の関心事を学習の課題にしていく過程を意識させる。</p> <p>◆解決方法の一つとして法が存在し、それ以外にも、道徳、市場などがあることに気付かせる。</p>				<p>●【単元を貫く問い】の解決に向けて、問いに対する答えを予想したり、解決すべき疑問を挙げたりするなど、解決への見通しを立てている。（発言、ワークシート）</p>
単元のまとめ 1時間	<p>◇本単元で学んだことなどを生かし、【単元を貫く問い】について自らの考えを論述する。</p> <p>単元の授業が終了した時に、解決したい現代の諸課題とその理由を見いだしているということは、生徒が、単元の学習終了後も進んで問い続けていくべき現代の諸課題を解決するために必要な情報を収集したり、それらを基に友人や家族などと議論するなどして考えたりし続けることを意味する。評価方法としては、例えば、単元の終末に、生徒一人一人にワークシートに記述させ、その記述内容によって評価することが考えられる。</p> <p>【単元を貫く問い】</p> <p>◇新たな問いの設定</p> <p>単元の終末に、学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりすることが、主体的な学びの実現につながる。</p>				<p>○単元の導入時に立てた見通しを踏まえて、学習への自身の関わりを振り返り、自分にとっての学習の意義を見いだしている。（ワークシート）</p> <p>○よりよい社会の形成に参画することに向けて関心を持ち、問い続けていくべき現代の諸課題とその課題を問い続けていくことの意義を見いだしている。（ワークシート）</p> <p>ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）等を蓄積・分析・利活用する。</p>

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 公民（国立教育政策研究所）を基に作成

## 2 指導と評価の計画例

### (1) 公共の計画例「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち(3)主として経済に関わる事項」

#### ア 単元の目標

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる。
- ・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

#### イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことが通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりすることを、論拠をもって表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

ウ 単元の指導と評価の計画（4時間）※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価

次 【時間】	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 (評価「B」の規準)
第一次 【1時間】	<p>【単元を貫く問い】公正で持続可能な開発に向けて、日本を含む先進国はどのように協力すべきか。</p> <p>【問い】開発途上国にはどのような現状があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発途上国の定義を確認し、その国々に生じる課題には、どのようなものが考えられるか予想する。</li> </ul>			<p>【生成AIの活用】 収集したグラフなどのデータとともに、生徒が読み取った内容を生成AIに評価させることで、生徒の解釈が逸脱していないか、論理的な飛躍がないかをチェックすることができる。</p>

生成AIの活用	・生徒が、予想を立てた課題に関するグラフなどのデータを収集して、グループで共有する。			
第二次 【1時間】 生成AIの活用	<p>【問い】開発途上国の課題にはどのような背景・要因があるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで前次に調査した課題と、その課題が生じている国をグループごとに1つ選択し、課題の背景や要因を調査する。</li> <li>発展途上国の課題について、調査した内容を「内部」「外部」の背景・要因に分類し、どちらがより根本的な問題かをグループごとに協議する。</li> </ul>			【生成AIの活用】各グループの事例の調査について、生成AIに考えが不足していることや欠けている視点について評価させることで、生徒の学びを深めることができる。
第三次 【1時間】 本時	<p>【問い】先進国による開発援助はどのように行われるべきだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発援助の目的と種類を確認する。</li> <li>グループごとに、前次に設定した課題に対する開発援助の事例とその効果について調査する。</li> <li>事例について、幸福、正義、公正の観点をもとに評価する。</li> <li>開発援助の在り方を問う論述課題に取り組む。(授業の課題)</li> </ul>	態	○	開発援助の在り方について、幸福、正義、公正のいずれかの観点から工夫や改善策を提案しようとしている。
第四次 【1時間】	<p>【問い】公正で持続可能な開発のために、限られた援助資金をどのように分配すべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前次とは違うグループに分かれて、前次までに深めてきた開発途上国の課題や開発援助の事例を共有する。</li> <li>共有された課題と開発援助の事例について、仮の援助資金額を設定し、どのように分配すべきかを協議する。</li> <li>まとめとして、単元の学習を振り返り、ワークシートに基づき、自己評価を行う課題に取り組み、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <p>【単元を貫く問い】公正で持続可能な開発に向けて、日本を含む先進国はどのように協力すべきだろうか。</p>	思	○	単元の学習に取り組む中で、内容を理解し、深く考察する上で難しかった点を挙げ、具体的かつ実践的な工夫や改善策を構想し、表現している。
第五次 【0.2時間】	・単元テストにより、開発援助に関する基本的な概念の理解を測る。	知	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発途上国の課題について、概ね理解している。</li> <li>先進国や国連が、開発途上国が抱える課題にどのように対応しているかを概ね理解している。</li> </ul>

エ 学習指導案（3時間目／4時間中）

(ア) 本時の目標

具体的な開発援助の事例を多角的に分析し、その効果と限界を評価しようとするともに、客観的なフィードバックを通じて、不足している考えや欠けている視点に気づき、より深く批判的に思考し、諸課題を主体的に解決しようとする。

(イ) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>【問い】先進国による開発援助はどのように行われるべきだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発援助がどのような目的で、どのような形態で行われているかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜそのような援助が必要か」など、問いへの意識付けを促す発問をする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに、前次に設定した課題に対する開発援助の事例とその効果について調査し、表計算ソフトで作成したワークシートにまとめる。</li> <li>事例について、幸福、正義、公正の観点をもとにグループで考察し、ワークシートにまとめる。</li> <li>各グループの考察のまとめを生成AIに読み込ませ、不足している考えや欠けている視点に関する提案をもらう。生成AIの提案を踏まえ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「幸福、正義、公正」の観点から、具体的に何を読み取るべきかを明確に指示する。</li> <li>生成AIによる評価については、自身の思考を多角化し、深めるためのヒントとして捉えるよう促す。</li> <li>生成AIへの質問の仕方</li> </ul>

生徒が自らの関心に基づいて深掘りしたい課題や事例を自己決定する機会を設定することは、主体的に学習に取り組む態度を育む視点からも大切である。

自身の考えと、他者（生成AI）の評価を比較する機会を設定することは、どのように改善すべきかを自ら考える力を養う観点からも大切である。

	て考察を深め、ワークシートにまとめる。	については、具体的な指示をするよう指導する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発援助の在り方は、一様ではなく、様々な視点から評価されるべきであることを再確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例を深く考察できているものはモニターに投影して取り上げる。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>【問い】先進国による開発援助はどのように行われるべきだろうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進国による開発援助はどのように行われるべきかを、具体的な事例に触れながら、幸福、正義、公正の観点から論じる課題に取り組み、新たな課題を発見する。</li> </ul>	

表計算ソフトと学習支援ソフトを活用することで、好事例を、その場で共有することができる。

## オ 学習の進め方や学習評価の工夫

### (ア) 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導方法の工夫

「幸福」「正義」「公正」の各観点について、生徒が、具体的な援助事例と結び付けて考察することに難しさを感じる事が予想される。そのため、事前に具体的な考察のポイントや「より深く考察できている状態」の例を示したものを提示する工夫などが考えられる。また、日頃から、これらの観点をを用いて考察するプロセスを経験することも重要である。

### (イ) 生成AI活用の工夫

生成AIは、生徒が提示した事例の考察の結果に対し、不足している考えや欠けている視点を客観的に評価し、生徒一人一人の入力内容に応じたフィードバックを提供することができるため、学びを主体的に調整する力を養うために効果的なツールとなる。

教師の活用例	生徒の活用例
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導方法の工夫の検討</li> <li>文章課題の評価やフィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の読み取りが適切に行えていることの確認</li> <li>自身の考察を客観的に評価する活動</li> </ul>

### (ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」を育成するための学習の進め方や学習評価の工夫

#### ○ ICTを活用したフィードバック

ICTを活用することによって、意見や考察の結果を全体共有するなどの工夫が考えられる。グループワークで活用するワークシートを表計算ソフトで作成することによって、各グループの意見や考察の結果を教師が、その場ですぐに確認することができ、モニター等に接続して生徒にも可視化することによって、評価・フィードバックがより効果的に行える。

#### ○ 振り返りシートを活用した評価

単元の学習活動を振り返り、より深く理解し考えられるようになるために、どのような工夫ができたかを生徒が考えることで、粘り強さや学びを自己調整する力の育成が期待できる [◎ワークシート \(Link\)](#) [◎振り返りシート \(Link\)](#)

### (エ) 評価Aと評価Cの具体

評価A	単元の学習において、内容を理解し、深く考察する上で難しかった点を挙げ、具体的かつ実践的な改善策を提案している。
評価C	<p>具体的または実践的な工夫や改善策を提案が見られない。</p> <p><b>【手立て】</b> A評価の生徒の振り返り例を共有するなどして、個別指導で言語化を支援するなどの工夫も考えられる。</p>

(2) 倫理の計画例 「A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 (2) 国際社会に生きる日本人としての自覚」

ア 単元の目標

日本人としての在り方生き方について思索する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解する。
- ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る。
- ・ 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者ととともに、よりよく生きる自己を形成しようとしたりする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解している。</li> <li>・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者ととともによりよく生きる自己を形成したりしようとしている。</li> </ul>

ウ 単元の指導と評価の計画 (全6時間)

次 【時間】	ねらい、学習活動等	重点 記録	備考 (評価「B」の規準)
第一次 【1時間】  生成AIの活用	<p>【単元を貫く問い】日本人の意識や心情の底流にある物事の捉え方と人と人との望ましい関係の在り方はどのようなものか。</p> <p>【問い】あなたが考える日本人らしさとは何か。また、なぜそう考えるのか。(根拠を示した上で説明できるよう指導する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和辻哲郎の『風土』(原典資料)等を手掛かりとして、気候や風土といった環境的な諸条件やそこから派生する性質等に注目させる。 例：性格・行動等。</li> </ul>	態	<p>【主体的に課題を解決する学習場面】 問題作成アプリにより、例えば「人気のある年中行事」を国ごとに予想・比較させる。問題作成アプリにより、自分の意見を授業に活用しようとする主体的な態度を見取る。</p> <p>ICTを効果的に活用し、生徒の予想と生成AIの回答を比較させるなど、多面的に考察させる工夫が考えられる。</p>

第二次 【1時間】	<p>【問い】日本人（らしさ）はどのように形成されたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『古事記』や『日本書紀』（原典資料）を手掛かりとして、日本人の日本人らしさに対する心情と考え方を理解する。</li> <li>グループワークなどの対話的な活動を通して、祖先の心の拠り所について理解を深めるとともに、現代の自分たちとの関わりや現代社会の問題について分析する。</li> </ul>	知	<p>自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
第三次 【2時間】	<p>【問い】「日本人らしさ」（日本の精神）の形成において外来思想（儒教、仏教、キリスト教等）は、どのような影響を与えたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「受容→融合→変容」の観点で整理させる。年号よりも文化的流れを重視できるようにワークシートを工夫し、「各思想が日本文化に及ぼした影響」を整理する。（例：儒教→家父長制／仏教→死生観／キリスト教→愛の概念）</li> </ul> <p>【問い】あなたが考える日本人らしさはどのように形成されたのだろうか？ ※【発展】生成AIを用いて他国の人々の国民性と比較することなどが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や資料集を用いて、「日本人らしさ」に関する文化的・歴史的背景を確認する。その上で「外国人らしさ」と聞いて思い浮かぶイメージを考え、その背景として考えられることについても個人の考えをグループで共有し、西洋との比較結果をまとめる活動を通じて、生徒同士の相互評価を行う。</li> </ul>	知	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で取り組んだワークシートの内容について、他者の発表を聞くなどして、自身の考えの変化などに着目し、参考になった事柄を見いだしている。</li> </ul>
本時 (2/2時間)		態 ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>「単元を貫く問い」に対する答えを明らかにするために、日本人の信条や心情と考え方を理解し、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について思索を深めている。</li> </ul>
第四次 【1時間】	<p>【単元を貫く問い】日本人の意識や心情の底流にある物事の捉え方と人と人との望ましい関係の在り方はどのようなものか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について、自分の考えを整理して発表する。</li> <li>単元を貫く問いに対し、単元のはじめに考えた自身の考えと、本時における考えとを比較し、まとめた内容を、新たな問いや自身のこれからの生き方についての課題等も含めて表現する。</li> </ul>	思 ○	<p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異文化への偏見や固定観念を避けるよう、相対的な文化理解を重視する。</li> <li>日本文化に対しても多様な考えがあることを踏まえ、単一的な「日本人像」として捉えることのないよう留意する。</li> </ul>

エ 学習指導案（4時間目／5時間中）

(ア) 本時の目標

単元を貫く問いに対する答えを明らかにするために、日本人の心情と考え方を理解し、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について思索を深めようとする。

(イ) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>【問い】あなたが考える日本人らしさはどのように形成されたのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問いに対する各自の考えを学習支援ソフトを活用して共有し、学習の見通しを立てる。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や資料集を用いて、「日本人らしさ」に関する文化的・歴史的背景を確認する。その上で「外国人らしさ」と聞いて思い浮かぶイメージを考えさせ、その背景として考えられることについても個人の考えをグループで共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「八百万の神」について考えさせるとともに西洋文化（ユダヤ教・キリスト教・イスラームとの違い）についても考察させる。</li> </ul>
まとめ	<p>【問い】あなたが考える日本人らしさはどのように形成されたのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の内容を踏まえ、西洋との違いについて、まとめる活動を通して、生徒同士の相互評価を行い、学習の振り返りを行う。</li> </ul> <p>◎ワークシート (Link)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地理総合」における多文化共生の内容にも関連付け、他の国の人々や文化を尊重しながら主体的に生きる態度の育成を目指す。</li> </ul>

先哲が、人間観、自然観、宗教観などの特質について、どのように考えたかを、資料（根拠）を基にしてまとめさせる。

地理総合の学習を通して「現代社会においては、多様な習慣や価値感をもつ人々と国内外で共存していくことが求められており、自他の文化を理解し互いを尊重し、相違を認めただけで共存するための新しい関係や新たな社会の在り方を創造できる資質・能力」が育成されている。

## オ 学習の進め方や学習評価の工夫

### (ア) 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導方法の工夫

「〇〇らしさ」等を生徒にイメージさせる際に、具体的な社会的事象等と結び付けることに難しさを感じる事が考えられる。したがって、社会的事象等の意味を理解しやすくするため、社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるように、特別活動などとの関連付けなどを通して、実際的な体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、生徒が学習活動に対して見通しがもてるよう工夫することが考えられる。

### (イ) 生成AI活用の工夫

学習課題に対する生徒の予想と、生成AIが導き出す学習課題に対する回答を比較することで、生徒が、学習課題に対して多面的に考察することが期待できる。

また、生成AIが導き出した学習課題に対する回答を批判的に考察することで、批判的思考力、情報活用能力及び論理的思考力を育成することが期待できる。加えて、生成AIに原典資料を要約させたり、生徒のレポートを読み込ませてフィードバックをさせたりすることにより、学習活動の効率化を図ることが期待できる。

### (ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」を育成するための学習の進め方や学習評価の工夫

#### ○ 学習の進め方：主体性を引き出すアプローチ

##### 【探究的課題の設定】

「正義とは何か？」や「幸福と倫理的行動の関係」など、生徒自身が考えたい問いを中心に据える。

##### 【価値観の対話と討議】

倫理的ジレンマを扱ったケーススタディを用い、小グループで意見交換をすることで、自らの価値観を見つめ直す機会とする。

##### 【ICTを活用した協働学習】

学習支援ソフトなどを使い、他者の考えにアクセスしながら自分の考えを再構築する環境を整える。

#### ○ 学習評価の工夫：プロセスを可視化する方法

##### 【ループリックによる自己・相互評価】

生徒自身が評価に参加できるようにするために、主体性、協働性、思考の深さなどの観点をループリック化する。

##### 【ポートフォリオ評価】

学びの軌跡を可視化するために、単元ごとに、探究の過程・成果物・振り返りなどを蓄積する。

##### 【スタディ・ログ（メタ認知の記録）】

教師はデータを基にフィードバックや授業設計へ還元するために、Googleフォーム等を活用し、哲学的思考や疑問を可視化する。

##### 【「振り返り（リフレクション）」を組み込む】

生徒の学びが深化するよう、単元や活動の後に、生徒の気づきや変化を文章で記録する時間を設ける。

### (エ) 評価Aと評価Cの具体

評価A	<ul style="list-style-type: none"><li>・発表内容に対する具体的な気づき（新しい視点、論理構造、根拠など）を記述し、ワークシートに反映している。</li><li>・自身の考えがどのように変化したかを根拠とともに説明し、学びにつなげている。</li><li>・他者の意見のよさを認めつつ、自分の考えと融合・発展させた表現ができています。（例：Aさんの意見を聞いて、私は〇〇についての見方を変えた。自分は△△と考えていたが、□□という観点が新鮮で、今後は両方の視点から考えてみたい。）</li></ul>
評価C	<ul style="list-style-type: none"><li>・ワークシートに反映された内容が自分本位で、他者の影響が見受けられない。（例：〇〇について考えていたから、Cさんの話は面白かった。）</li><li>・学びや気づきが表面的で、「参考になった」などの単純な表現で終わっている。</li><li>・自分の考えの変化についての記述がない、又は不明確である。</li></ul> <p>【手立て】これまでの学習を振り返らせ、これまでどのような「問い」を考えてきたかや、その「問い」と関連する先哲は誰であったかなどを尋ねるとともに、他者と自分の考えを比較するよう促した上で、自分の考えの変化に着目させる。</p>



(3) 政治・経済の計画例「A 現代日本における政治・経済の諸課題(1)現代日本の政治・経済」の計画例

※特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）との教科等横断型授業

ア 単元の目標

- ・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解する。
- ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。
- ・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・我が国の主権者として、よりよい社会の実現のために主体的に社会参画したり、現実社会の諸課題を解決したりしようとする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。</li> <li>・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の主権者として、よりよい社会の実現のために、主体的に社会参画したり、現実社会の諸課題を解決したりしようとしている。</li> </ul>

ウ 単元の指導と評価の計画（全11時間 政治・経済：9時間、特別活動：2時間）

次 【時間】	ねらい、学習活動等	重点 点	記録 録	備考 (評価「B」の規準)
第一次 【3時間】	<p>【単元を貫く問い】現実社会では、どのように権利や自由が保障され、秩序が形成されているのだろうか。</p> <p>【第一次のねらい】法とは何か、表現の自由によるプライバシー侵害の問題など、身近な社会問題は、何を根拠に解決を図ることができるのか、憲法や各種法令を基に理解する。</p> <p>【問い】人権は常に守られているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権保障について、具体的な改善策等の手立てを考える。</li> <li>・死刑制度と憲法36条を比較し、死刑制度の是非について、判例や他国の状況、反対派の主張等も参考に考察する。</li> </ul> <p>このほか、道内で起こった社会問題の新聞記事を提示し、人権問題についての課題を追究させるなどの工夫が考えられる。</p>	主		<p>「単元を貫く問い」の答えを予想する。初発の思考であるため、記録として評価せず、学習改善につなげる評価として見取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって「当たり前」の価値観を揺さぶるためGoogleフォームを活用し、クラスの意見を可視化する。</li> <li>・死刑実施国の割合や、日本における死刑制度に関する世論調査等の資料を出典を明らかにして提示する。</li> <li>・「死」に関わる内容のため生徒の心理面に十分配慮する。</li> </ul> <p>◎生徒の概念を揺さぶる資料の提示1 <a href="#">(Link①)</a></p>

<p>第二次 【4時間】</p>	<p>【第二次のねらい】法の下での平等という言葉があるが社会には差別が根強く残っていることも事実であり、そこから目を背けず、法の下での平等の本質的な意味と解決策について考察する。</p> <p>【問い】平等の実現に向け、法はどのような役割を果たすだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 主要国の管理職の男女比のグラフ等を参考に、現実社会の実態について読み取り、現代に合った効果的なポジティブ・アクション（差別是正政策）を考察する。プレゼンテーションソフトを用いて資料を作成し、クラス内で発表する。</li> </ul>	<p>思</p> <p>○ 効果的な差別是正のための取組（ポジティブアクション）を多面的・多角的に考察、表現している。</p> <p>・クラス内で発表し、相互評価を行うことで、新たな視点について気付きを促す。 ・1人1枚の作成を想定しているが、作業が進まない生徒は、2人1枚（ペア）での作成も可とする。</p>
<p>第三次 【2時間】</p> <p>本時</p> <p>生成AIの活用</p>	<p>【問い】本校の校則・規則のよりよい在り方とは何だろうか～校則を検討してみよう～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 校則や校内規程が適正手続き主義や法の下での平等に違反していないか、第二次までの学びを基に批判的に考察する。</li> <li>• 生成AIや他者の意見を活用して情報収集、整理・分析し、校則を見直し、根拠をもって、よりよい校則の案をまとめる。</li> </ul> <p>まとめ 【単元を貫く問い】に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>◎生徒の概念を揺さぶる資料の提示2 <a href="#">(Link2)</a></p> <p>◎生徒作成資料の例 <a href="#">(Link3)</a></p> <p>態</p> <p>○ 単元を貫く問いと正対した答えを記入できている。</p>
<p>【教科等横断型】</p> <p>特別活動： ホームルーム活動、学校行事</p> <p>【2時間】</p>	<p>【ホームルーム活動 1時間】（生徒総会議案審議）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 政治・経済の授業を基に、校則の見直しに係る提言案を討議し、学級内で合意形成を図り、改善案としてまとめる。</li> </ul> <p>【学校行事 1時間】（生徒総会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホームルームで合意形成を経た改善案を、生徒総会で全校生徒とともに審議し、校則の人権が尊重されたよりよい校則の在り方について合意形成を図る。</li> </ul>	<p>【生成AIの活用】 生成AIに、自校の校則（生徒心得）を入力し、「日本国憲法や各種法令に違反していないか」「改善策について表にまとめなさい」などと指示し、回答をもとに再度批判的に考察し、改善案をまとめる。</p> <p>◎生成AIの回答例 <a href="#">(Link4)</a></p> <p>◎教科等横断マップ <a href="#">(Link5)</a></p>

エ 学習指導案（9時間目／11時間中）

(7) 本時の目標

法（規則、ルール）の意義と妥当性について、生成AIを活用しながら、客観的に判断し、よりよい制度の在り方について、現代を生きる主権者として適切に判断しようとしている。

(イ) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本校の校則（生徒心得）をグループごとに分担して読み、時代と合わない点やそう考える根拠等について、これまでに学習した事項を基に、疑問点等を書き出す。</li> </ul> <p>【問い】本校の校則・規則のよりよい在り方とは何だろうか～校則を検討してみよう～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワークシートに、箇条書でよいので気になった点を記入させ比較する。</li> </ul>

校則を読ませる前に身だしなみなどの学校のルールについて、生徒が不都合と感じていることなどを挙げさせる。

展 開	・生成AIに、本校の校則について、「わが国の法令と照らし合わせて権利侵害はないか」と指示し、回答を基に、批判的に考察することで、校則のよりよい改善案を提案する。	・生成AIの回答を鵜呑みにせず、必ず複数人でチェックし、誤情報がないか、確認する。 ◎ワークシート <a href="#">(Link⑥)</a>	立場によって意見の異なる様々な課題について公正に判断し、合意形成する力や課題解決のための論理的な思考などの資質・能力を育成できるようにする。
ま と め	・グループで1枚ポートフォリオを共有しながら、単元を貫く問いに対する答えを記入する。 【問い】本校の校則・規則のよりよい在り方とは何だろうか～校則を検討してみよう～	・現実社会での合意形成の方法を資料として提示する。 ◎1枚ポートフォリオ <a href="#">(Link⑦)</a>	「評価に用いる評価」のうち、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く学習に取り組む態度」に関する項目となる。

※本時の問いを基に振り返り等を行い、【新たな問い】を設定する。  
例) 生徒の基本的な人権を尊重した校則の在り方とは、どのようなものだろうか

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導方法の工夫

校則（生徒心得、又は生徒指導規程）は、一般的に、相当な分量で記載されていることが多いため、一人の生徒が全てを担当するのではなく、あらかじめ担当箇所を決めて検討したことをグループで協議するなど「協働的な学び」を進め、全ての生徒が校則見直しに参画することが重要である。また、文章の読解や要約を転記することに困難を抱える生徒に対しては、例えば、気になった箇所にマーカーを引かせるなど、段階的な指導を行うことが効果的である。

(イ) 本事例における生成AI活用の工夫～生成AIの効果的な活用に向けたフローチャート～

◎フローチャート [\(Link⑧\)](#)

◎道立学校における生成AI活用ガイドブック [\(Link⑨\)](#)

(ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫（評価Aと評価Cの具体）

本事例では、主体的に学習に取り組む態度の評価方法は、「1枚ポートフォリオ」を用いる。本時で活用する「1枚ポートフォリオ」は、単元を貫く問いとその答え、毎時間の学習内容を記録させることとしている。このことにより、生徒に学習をメタ認知させるとともに、単元の最後に、「新たな問い」を設定させることで、より質の高い問いを生み出すことができる。このような一連の学習過程を通して、生徒の「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く学習に取り組む態度」の育成を図ることが重要である。

評価A	自身の学習記録を基に、協働的な学びを通して、単元を貫く問いを踏まえて現実社会の諸課題を具体的に解決しようとしている。
評価C	単元を貫く問いと答えが正対しておらず、学習記録を活用できていない。 【手立て】単元を貫く問いを基に、1時間ごとの学習課題が設定されていることを踏まえ、日常の学習記録が、単元全体のまとめにつながることを説明する。また、学習記録の記載段階から、協働的な「振り返り（まとめ）」の時間をつくる。

1枚ポートフォリオ（学習記録・まとめ）の記述について、生徒同士で相互評価を行うことで、評価Cの生徒や学習活動の進捗が思わしくない生徒が、他の生徒の振り返りから、不足していた視点に気が付いたり、評価Aの生徒が多様な視点を獲得し、新たな価値を創造したりするなど、協働的な学び合いに活用することも考えられる。

## Topic

### ①「政治的教養を育む教育」の充実①

～令和6年度公立高等学校公民科における新聞を活用した取組～

主権者教育において育成することが期待される資質・能力として、次の内容が挙げられている。

#### 【知識及び技能】

- ・ **現実社会の諸課題**（政治、経済、法など）に関する現状や制度、概念についての理解
- ・ **調査や諸資料**から情報を効果的に調べ、まとめる技能

#### 【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 現実社会の諸課題について、**事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力**
- ・ 現実社会の諸課題の解決に向けて、協働的に追究し、根拠をもって主張するなどして**合意を形成する力**

#### 【学びに向かう力・人間性等】

- ・ **自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力**

こうした資質・能力を育むためには、次のような活動が求められる。

- ・ **現実の具体的な政治的事象を題材**として、正解が一つに定まらない問いに取り組む
- ・ **今までに習得した知識・技能を活用**して解決策を考える
- ・ 他の生徒と学び合う活動や、言語活動による**協働的な学び**に取り組む
- ・ 有権者として必要な政治的教養を育む**実践的な教育**を行う

ここでは、日本新聞販売協会北海道地区本部との連携により、生徒が新聞を活用して現代の諸課題を追究したり解決したりする学習活動に取り組んだ政治的教養を育む教育の実践例を示す。

#### 【旭川東高校】

##### ○ 学習内容（科目「公共」）

日本の政治機構と政治参加～政治参加の意義～

##### ○ 授業の目標

現代日本の政治の諸問題に対して、新聞4紙を比較検討して、新聞記事が伝えようとしている本質的な事項を考察し、表現する。

##### ○ 授業の問い

「新聞記事に書かれていることをどのように読み取ればよいのだろうか？」

##### ○ 授業のポイント

- ・ 目の前にある既成事実を主観だけではなく、客観的に判断し、友人と推論を重ねることで1つの事象について複数の考え方があることを理解する。
- ・ 同じ内容の記事であっても各新聞社によって「伝え方」、「書き方」、「強調の仕方」が異なることを知る。
- ・ 1つの事象（記事）に対して、「感想」だけで終わらずに「疑問・発見・考えの進化」などに目を向けられるようになる。

##### ○ 授業の概要

- ・ 第1時：「世の中に溢れている『真実かそうではないかが分からなくなる』とは、どういうものだろうか」という問いを設定し、グループで「関心のある政治に関わる課題・テーマ」を1つに絞り、1社目の新聞記事を分析し、「感じたこと・考えたこと」などをまとめる。
- ・ 第2時：第1時と同様の取組（2社目、3社目の新聞記事を分析）
- ・ 第3時：4社目の新聞記事を分析し、「感じたこと・考えたこと」などをまとめる。その後、第1時、第2時の授業を通して「新聞の読み方」、「世の中で起きていることの捉え方」などについて班ごとに発表するとともに、他班の発表を聞いて、どのように考えが変化したか、また授業を通して感じたことなどをまとめる。

##### ○ 授業の成果

- ・ 新聞を活用し、目の前の事象について主観的な見方だけでなく、様々な考え方を多くの友人と推論することにより、新聞社によって、同じ話題でも、記事の内容が異なることについて気付くことができた。
- ・ SNSが急速に普及しており、現代の高校生にはより一層「事実を見抜く力」、「疑う力」を醸成することが重要であり、1つの事象に対して考え方や見方は複数あることに気付かせることができた。

##### ○ 生徒の感想

- ・ 都知事選のトピックを比較した。新聞社ごとに表などを使って各都知事の公約内容をまとめるなど、読者が考えを深めるための工夫にも違いが見られた。A新聞は、政治について知っている人が読みやすい。B新聞は、会見での内容をできるだけ詳細に伝えようとしており、臨場感がある。C新聞は、表現が分かりやすく、政治に詳しくない人でも読みやすいと感じた。それぞれの新聞社によって書き方が全く違うことに気付いた。



# Topic

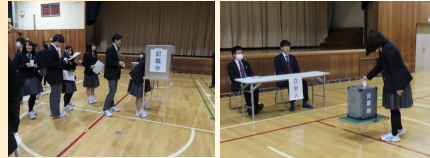
## ◎「政治的教養を育む教育」の充実② ～選挙管理委員会、議会事務局と連携した取組～

政治的教養を育む教育は、学習指導要領に基づいて、校長を中心に学校として指導のねらいを明確にし、系統的、計画的な指導計画を立てて実施すること、教科においては公民科での指導が中心となるが、総合的な探究の時間や特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事など）と連携して適切に指導を行うこととされている。また、生徒が有権者としての権利を円滑に行使することができるよう、選挙管理委員会との連携などにより、具体的な投票方法など、実際の選挙の際に必要な知識を得たり、模擬選挙や模擬議会など、現実の政治を素材とした実践的な教育活動を通して理解を深めたりすることができるよう指導することが求められている。

ここでは、選挙管理委員会や議会事務局と連携した、実践的な政治的教養を育む教育の実践例を示す。

### 【北見商業高校】

2年生（現3年生）の「公共」において北海道選挙管理委員会と連携し、選挙啓発出前講座を実施



- **目的**  
近年の若者の投票率が低下し、政治への関心が低いことを踏まえ、今後、有権者となる生徒が選挙の仕組みや投票参加の意義について理解することで、選挙や政治に関心をもてるようにする。
- **内容**
  - ・選挙講座  
（選挙制度の概要、選挙運動、投票参加の意義等）
  - ・模擬投票  
※選挙公報（選管作成）を基に模擬投票を実施
- **生徒の感想**  
選挙権を有することに対して実感がなかったが、選挙制度について学ぶとともに、模擬投票を行ったことで、国政選挙への興味・関心が高まった。

選挙啓発出前講座選挙 選挙公報  
令和7年1月16日（北見商業高等学校選挙区） 山形県選挙管理委員会

みなさんの雇用や所得を増加させよう！ 空き地にショッピングセンターを作り 働く場所と所得を増やします！	神野の寿 ゆう
子育て環境を充実させて未来を築く！ 保育施設や待機児童を解消して 育児・子育て世代を応援します！	坂本 あけみ
高齢化社会に働き合い充実した生活！ 医療費を削減し高齢者を支援して 明るい未来生活を築きましょう！	田村 あけみ
皆さんと犯罪・災害に強いまちを創ろう！ 犯罪が起らないための環境整備や 災害から命を守るための取り組みをします	おぼろ 海

### 【豊富高校】

3年生の公民科の学校設定科目において、豊富町議会事務局と連携し、「高校生議会」を実施

- **目的**  
地域の議会を傍聴及び町議会の講義により、地域への理解を深めるとともに、生徒の関心や疑問を基に、模擬議会に取り組むことで、有権者となる高校3年生の政治的教養を養う。
- **内容**
  - ・町議会傍聴
  - ・町議会議員による事前サポート授業  
※議会事務局と連携し、日程及び内容を調整  
※町議会議員との交流（「高校生議会」への助言等）
  - ・「高校生議会」  
※本校の今後の在り方や町内の設備等について質疑



#### <高校生議会会議録から抜粋>

【高校生議員からの質問】  
豊富高校の学科増設について伺います。  
現在、豊富町では、町の計画の一環として「若者を町に呼び込む」という事を目的とした事業が進められていると思います。そこで私たちは、事業の一つとして、豊富高校の中で酪農について学ぶことができる学科があったらよいのではないかと考えました。  
この意見について、町長と教育長としての意見をお聞かせください。

【町長の答弁】  
豊富高校の学科増設についてお答えをいたします。  
現在、豊富高校は、地域連携校として存続しておりますが、少子化などにより生徒数が減少し、大変厳しい状況となっております。  
本町としては、豊富高校存続のため、湯治留学支援制度や制服購入費の金額助成など、様々な取組を実施しておりますが、入学生の確保に苦慮しているところでもあります。  
議員ご指摘の学科増設につきましては、高校が北海道教育委員会に申請し検討されることとなりますが、今後、豊富高校存続の支援の一つとして、実現性などについて、議会をはじめ、関係機関の皆さんと協議、検討を進めて参りたいと思います。  
以上、答弁とさせていただきます。

- **生徒の感想**  
一番難感じたのは再質問、再々質問を考える時であった。町長からこういった答弁があるのか、分からない状態だったが、議長や議員の皆様にも色々補助をしていただいたので、安心して取り組むことができた。また、皆で豊富町の課題について考える貴重な機会となった。